

## 【理事長挨拶】

### 経営関連学会協議会の活動と役割

理事長 徳賀 芳弘

経営関連学会協議会（以下、協議会）は、日本学術会議の組織改編にともない研究連絡委員会の制度がなくなったことを受けて、それまで経営、会計、商学の3分野ごとに個別に形成されていた3つの旧研連を統合する形で、2006年11月に、経営、商学、会計分野の57学会の加盟を得て発足しました（2019年1月現在の構成学会は58学会）。本協議会の会則第2条では、本協議会の目的として、1. 経営・情報・商学・会計分野における経営に関連する研究の発展と知識の普及、2. 経営に関連する研究と教育を通じた社会への貢献、3. 経営に関連する諸学会および研究者の交流の促進、4. 経営に関連する海外の諸学会および研究者との協力の推進、5. 日本学術会議と「日本学術会議協力学術研究団体」との連携の促進が謳われています。この目的を達成すべく、毎年3回開催される評議員会の後で、加盟学会会員だけではなく、広く社会に開かれた公開講演会とシンポジウムを開催する他、協議会ホームページ上で、各加盟学会の全国大会の開催場所、開催日時、統一論題テーマ等の情報を掲載し、各加盟学会の情報の共有化を図っております。さらに2019年度より、日本での国際会議開催、海外での研究報告、および海外の著名な研究者の招聘に対する支援を開始しました。海外との学術交流事業に関しても、協議会の「後援」という形で協力させて頂いております。

2018年度における本協議会主催のイベントは以下の通りです。

2018年6月10日に、「公開講演会」を開催し、講師に伊藤邦雄氏（一橋大学大学特任教授）、パネリストに福田里香氏（パナソニックブランドコミュニケーション本部CSR・社会文化部長）をお招きし、『コーポレート・ガバナンスの新動向と企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取り組み』と題する伊藤氏による講演と福田氏によるコメント提示の後、植木英雄・副理事長の司会により、参加者との質疑討論が活発に行われました。

2018年11月17日には第11回「公開シンポジウム」『AI時代の価値共創と人材育成の展望』（後援：人工知能学会）を開催し、講師・パネリストに浦本直彦氏（人工知能学会会長）、脇谷勉氏（人工知能学会理事）、松尾豊氏（日本ディープラーニング協会理事長）、また討論者として戸谷圭子氏（明治大学教授）に登壇をお願いしました。大変な盛会で、当初予定していた会場に入りきれないことから、別の大きな会場を用意してもらうというハプニングもありました。

さらに、2019年3月16日には日本学術会議・経営学委員会と経営関連学会協議会・評議員との意見交換会を開催しました。日本学術会議経営学委員会・委員長の徳賀芳弘（京都大学副学長・教授）と同委員会・会員の西尾チヅル先生（筑波大学教授）より、現在、経営学委員会で分科会を設けて取り組んでいる5つの課題と、2018年12月9日に開催された学術フォーラム『研究者の研究業績はどのように評価されるべきかー経営学における若手研究者の育成と関連してー』における議論・論点整理が示されました。その後、植木副理事長の司会のもとで、それらの課題について非常に活発な意見交換がなされ、また学術会議・経営学委員会がこれから取り込むべき課題について評議員から多数の提案がなされました。

また加盟学会の会員であれば、誰でも投稿可能な電子版英文ジャーナル（Journal of Japanese Management: JJM [ISSN 2189-9592]）を2016年11月に創刊しましたが、2017年度は「加盟学会推薦論文」という規定を別に定め、JJMの論文の投稿の質と量を確保する改革を行いました。徐方啓副理事長（近畿大学教授・日本創造学会会長）及び高垣行男編集長・理事のご尽力により、2018年11月にはVol.13 No.1を発行しました。

協議会は、経営・情報・商学・会計に関連する諸学会が横断的連携を深めることで経営

関連分野の研究の社会への発信力を強化することでその存在感を高めるとともに、日本学術会議との連携強化を図り、加盟学会からの声を我が国の学術行政に反映させるという大きな役割を担っております。しかし、同時にこの協議会活動が持続的に存続・成長していくための課題も山積しております。

今後、加盟学会の会員の高齢化に伴う会員数の減少は、協議会にとっても極めて深刻な問題を孕んでいます。とりわけ、協議会の財政が加盟学会の会費にのみ依拠するだけに、加盟学会を維持し、その拡大をどのように実現していくのかは協議会の存続にとって大きな課題となっております。そこで、協議会をより魅力的な組織とするために、前述しましたように、加盟学会の会員に対して、国際会議開催、海外学会報告、及び海外の著名研究者の招聘に対する支援を開始し、そのための財源確保のための工夫を始めました。法人会員（仮称）の制度を設けて、企業で経営の実践に関わっておられる方々にも協議会にご参加頂けるように、また、企業及び個人からの寄付を容易にするために、協議会（任意団体）を一般社団法人化する手続きを始めております。

第5期役員体制は2018年4月に発足し、新たな布陣で協議会活動がスタートしました。協議会の理事長としてこれまで1年間、その職責を果たすべく微力ながら必死に活動を行ってまいりました。この6月で理事長を退きますが、風間特別顧問と第5期役員の皆様の温かいご支援とご尽力、加盟学会のご理解に支えられ、今後の改革の道筋を示すことができたことと自負致しております。この協議会の活動を通じて、経営関連の諸学会の皆様と幅広い交流を深められたことは、わたくしにとって貴重な財産となりました。ここに記して深甚なる感謝の意を表します。

## 【活動報告】

### ◆ 電子版英文ジャーナル

経営関連学会協議会では、2016年より電子版英文ジャーナル Journal of Japanese Management (JJM) の発行を開始し、2017年5月に Vol.1 No.2、2017年11月に Vol.2 No.1 を発刊いたしました。

JJM の目的は研究論文の海外発信であり、査読の結果により掲載の可否が決定されます。経営関連学会協議会に加盟する学会の学会員は投稿することができます。「投稿規程」「執筆細則」や投稿の締め切り日など詳しくは、経営関連学会協議会のウェブサイトに掲載されておりますので、以下のサイトをご参照ください。

「Journal of Japanese Management (JJM)」について <http://www.jfmra.org/jjm/>

<参考>

### Journal of Japanese Management Vol.3 No.1 (2018年11月) 目次

#### Recommended paper by Japan Cost Accounting Association

Budgeting Patterns in Japanese Companies and Their Relationship with Exploration and Exploitation: An Exploratory Study ..... p.1  
Takeyoshi Senoo

#### Selected papers from the Proceedings of the International Conference on Creativity Innovation 2018

A Conceptual Framework for Responsible Innovation ..... p.22  
Kim Hua Tan and Tetsuo Yamada

Design protection in managing sustainable user driven innovation in SMEs ..... p.30  
Gunnar Prause, Laima Gerlitz and Thomas Hoffmann

#### Notice of the Best Paper Award

Tetsushi Fujimoto, Hideki S. Tanaka and Shiming Xia's paper ..... p.48

## ◆ シンポジウム等

経営関連学会協議会では、加盟学会の専門領域が広域にわたることを踏まえて、広義のテーマでのシンポジウム・講演会等を開催しております。2018年中には、以下のような公開パネルディスカッション・公開シンポジウムを開催いたしました。なお、これらの講演会・シンポジウムの記録は、経営関連学会協議会のウェブサイトでご覧いただけます。（「協議会の活動」→「イベント」→報告）

### 公開パネルディスカッション

「コーポレート・ガバナンスの新動向と企業の ESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組み」

日時：2018年6月10日（日）14:10～16:30

会場：明治大学駿河台研究棟 2階 第9会議室

講師・パネリスト：

伊藤 邦雄 先生（一橋大学大学特任教授）

福田 理香 氏（パナソニックブランドコミュニケーション本部 CSR・社会文化局長）

司会：植木 英雄（経営関連学会協議会副理事長・筑波学院大学特別招聘教授）

### 公開シンポジウム

「AI時代の価値共創と人材育成の展望」（後援：人口知能学会）

日時：2018年11月17日（土）13:50～17:20

会場：専修大学 神田キャンパス 1号館 101教室

講師・パネリスト：

浦本 直彦 氏（人口知能学会会長・（株）三菱ケミカルホールディングス先端技術・事業開発室 Chief Digital Technology、Scientist & Text Mining COE）

脇谷 勉 氏（人口知能学会理事・（株）本田技術研究所 R&D センターX 執行役員）

松尾 豊 氏（日本ディープラーニング協会理事長・東京大学大学院特任准教授）

討論者：

戸谷 圭子 氏（日本学術会議連携会員・明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科教授）

司会：植木 英雄（経営関連学会協議会副理事長・筑波学院大学特別招聘教授）

### 意見交換会

「日本学術会議・経営学委員会委員と経営関連学会協議会・評議員との意見交換」  
『研究者の研究業績はどのように評価されるべきかー経営学における若手研究者の育成と関連してー』（2018年12月学術フォーラム）の論点整理・分科会5課題議論

日時：2019年3月16日（土）13:50～15:10

会場：明治大学駿河台研究棟 2階 第9会議室

意見交換者

徳賀 芳弘 氏（日本学術会議・経営学委員会委員長・京都大学副学長・教授）

西尾 チヅル 氏（日本学術会議・経営学委員会委員・筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授）

司会：植木 英雄（経営関連学会協議会副理事長・筑波学院大学特別招聘教授）

## ◆ 加盟学会の全国大会情報の提供

経営関連学会協議会では、加盟学会の全国大会の日程・会場・テーマをカレンダー形式で取りまとめ、ウェブサイトで公表しております。

縮小版： トップページ 右側・中段

拡大版： <http://www.jfmra.org/societies/conventions.html>

(トップページ→「全国大会一覧」)

<加盟学会へのお願い>

上記のカレンダーに情報を掲載いたしますので、全国大会の日程・会場・テーマが決定されましたら、経営関連学会協議会事務局 (E-Mail: [info@jfmra.org](mailto:info@jfmra.org)、FAX: 03-6745-9668) までご連絡をいただきますよう、お願いいたします。

## ◆ 理事会・評議員会

### 理事会

#### ◆ 第 10 回理事会

日時：2018年3月4日(日) 10:00～12:20

会場：明治大学駿河台研究棟 4階第3会議室

#### ◆ 第 11 回理事会

日時：2019年3月16日(土) 10:00～12:20

会場：明治大学駿河台研究棟 4階第3会議室

### 評議員会

#### ◆ 第 9 回評議員会

日時：2018年3月4日(日) 13:10～15:10

会場：明治大学駿河台研究棟 2階第9会議室

#### ◆ 第 10 回評議員会

日時：2018年3月16日(土) 13:00～14:20

会場：明治大学駿河台研究棟 4階第3会議室

評議員会議事録は、以下のサイトに掲載されております。

<http://www.jfmra.org/activity/>

平成29年度 収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位：円)

		予算額	決算額 (執行状況)	差異
<b>I 収入の部</b>				
会費収入	当年度	1,710,000	1,740,000	30,000
	過年度	210,000	270,000	60,000
	翌年度	0	0	0
論文掲載料収入		100,000	40,000	△ 60,000
受取利息収入		100	10	△ 90
雑収入		0	0	0
当期収入合計		2,020,100	2,050,010	29,910
<b>II 支出の部</b>				
事務局費		20,000	33,154	13,154
事務運営費		150,000	148,800	△ 1,200
HP運営・事務局業務委託費		388,800	388,800	0
ニューズレター作成費		20,000	0	△ 20,000
理事会費		100,000	97,586	△ 2,414
役員交通費		360,000	270,000	△ 90,000
評議員会費		150,000	84,503	△ 65,497
委員会費		20,000	0	△ 20,000
シンポジウム・講演会等開催費		311,000	419,020	108,020
英文ジャーナル発刊費		400,000	120,000	△ 280,000
予備費		100,000	0	△ 100,000
当期支出合計		2,019,800	1,561,863	△ 457,937
当期収支差額		300	488,147	487,847
前期繰越額		2,363,091	2,363,091	0
次期繰越額		2,363,391	2,851,238	487,847

経営関連学会協議会

財 産 目 録  
平成30年3月31日現在 (単位：円)

財産種目		金 額
I 財産の部		
1. 手許現金		119,677
2. ゆうちょ銀行口座	内訳	
(1) 通常貯金	681,561	
(2) 払込口座	<u>2,050,000</u>	<u>2,731,561</u>
		合 計 <u>2,851,238</u>
II 債務の部		
1. 未払金		<u>0</u>
		合 計 <u>0</u>
	差引純財産	<u>2,851,238</u>

経営関連学会協議会

平成 30 年度 収支予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位：円)

	予算額
I 収入の部	
会費収入	当年度 1,770,000
	過年度 60,000
	翌年度 0
論文掲載料収入	100,000
受取利息収入	100
雑収入	0
当期収入合計	<u>1,930,100</u>
II 支出の部	
事務局費	20,000
事務運営費	150,000
HP運営・事務局業務委託費	388,800
ニューズレター作成費	20,000
理事会費	100,000
役員交通費	360,000
評議員会費	150,000
委員会費	20,000
シンポジウム・講演会等開催費	311,000
英文ジャーナル発刊費	200,000
予備費	100,000
当期支出合計	<u>1,819,800</u>
当期収支差額	110,300
前期繰越額	<u>2,851,238</u>
次期繰越額	<u><u>2,961,538</u></u>